



小川徹は2015年4月の廃炉国際共同研究センター(CLADS)設立以来、センター長を務めている。1975年に日本原子力研究所(後に日本原子力研究開発機構)に入社してから、2012年に長岡技術科学大学に移るまで、高温ガス炉の燃料開発やアクチノイド核変換システムのための超ウラン元素系高温化学の研究に従事した。1985-1986年はカナダのチョークリバー原子力研究所で、酸化物燃料からの核分裂生成物の放出の研究に従事した。その他、燃料製造、品質検査、照射後試験について技術的経験を有している。福島事故直後は基礎工学研究部門長として除染効果評価システム開発等を指揮した。長岡技術科学大学(2012年4月～2016年3月)では大学院原子力システム安全工学専攻教授として、主に軽水炉シビアアクシデントに関連する化学研究を進めてきた。